

## 京都市立東総合支援学校

# 令和6年度 後期学校評価について

後期「学校評価アンケート」にご協力をいただきありがとうございました

後期学校評価アンケートは、Formsのアンケートで行い、保護者・児童生徒・教職員の回答結果と自由記述でいただいたご意見を基に、後期の取組について分析をしました。

紙面では、今回の結果と分析、学校の取組内容や改善策等について記載しています。今回の結果や自由記述でいただいたご意見は、全教職員で共有し、課題改善に向けて取り組んでいきたいと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願ひ致します。

<後期学校評価のねらいと方法について>

### (1) ねらい

- ◎今年度の学校経営の重点項目に沿って、教職員・保護者・児童生徒に対してアンケート調査を実施することによって、後期の取組に対する達成状況等を明らかにする
- ◎達成項目や課題項目について、教職員・保護者と情報共有し改善に向けて取り組む

### (2) アンケート実施方法

- ◎ 調査対象 : 児童生徒、保護者、教職員
- ◎ 時 期 : 令和7年1月中旬
- ◎ 回 答 者 : 児童生徒、保護者（1家庭に1枚）、教職員
- ◎ 調査方法 : 5つの選択肢（よくできている、だいたいできている、あまりできていない、できていない、わからない）の総数に対して数値を出し分析しています。その際に「よくできている」「だいたいできている」を肯定的回答とし、「あまりできていない」「できていない」を否定的回答とし数値を出しています。

(3) 回答率

	児童生徒 (138→139)		保護者 (134→135)		教職員 (116→109)	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
回答数	73	81	116	87	104	109
回答率	—	—	86.6%	64.4%	89.7%	100%

(4) アンケート結果

- ◎いのち」「よりそい」「つとめ」「ひろがり」「つながり」の重点教育目標別に項目をまとめました。
- ◎児童生徒アンケートは肯定的回答、否定的回答、わからない的回答を掲載しています。保護者アンケートは肯定的回答の数値を学部ごとに掲載しています。教職員アンケートは肯定的回答と否定的回答を掲載しています。
- ◎前期と比べて、肯定的な回答の割合が、5%以上上がっている項目をピンク、10%以上上がっている項目をピンクの下線、5%以下がっている項目をグレー、10%以下がっている項目をグレーの下線で着色しています。

「いのち」安心安全な学習環境														
児童生徒			肯定的		否定的		わからない							
			前期	後期	前期	後期	前期	後期						
1	A	先生は、困ったときや不安な時に声をかけたり、思いを受け止めたりしてくれる	80.8	84.0 ↑	5.5	3.7 ↓	13.7	12.3 ↓						
	B	先生は、困ったときや不安な時に声をかけたり、思いを受け止めたりしてくれる												
2	A	使ったものを片付けている	79.5	78.8 ↓	9.6	10.0 ↑	11.0	11.3 ↑						
	B	自分の物や学校の物を整理整頓している												
3	A	避難訓練等で、先生の話や放送を聞いて安全に過ごしている	86.3	87.7 ↑	2.7	2.5 ↓	11.0	9.9 ↓						
	B	避難訓練等で、自分やみんなの安全を守ることについて、考えて行動している												
保護者			小学部		中学部		高等部							
			前期	後期	前期	後期	前期	後期						
1	教職員は、子どもの様々な様子を見過ごさず丁寧な対応をしている			94.7 ↑	96.8	100	93.8 ↓	96.7	100 ↑					
2	学校は、子どもが安心安全で過ごしやすい学習環境に配慮している			92.1	100 ↑	94.4	93.8 ↓	93.3	95.0 ↑					
3	学校は、避難訓練等を通して安全教育や防災に向けた学習指導をしている			76.3	87.1 ↑	88.9	81.3 ↓	91.7	92.5 ↑					
教職員			肯定的		否定的									
			前期	後期	前期	後期								
1	子どもの内面から発せられる様々な表情や声に目を向け、耳を傾け丁寧な対応をしている			100	98.2 ↓	0	0							
2	子どもが安心安全で過ごしやすい学習環境に配慮している			100	98.2 ↓	0	0							
3	避難訓練等を通して安全教育や防災に向けた学習指導をしている			87.5	89.1 ↑	6.7	6.4 ↓							
【「いのち」安心安全な学習環境】														
児童生徒の肯定的回答は3項目中、2項目で80%を超え、保護者、教職員の肯定的回答は3項目中、全ての項目で80%を超えるという結果になり、「いのち」安心安全な学習環境に沿った取組が、ほぼ達成できたという結果になりました。この結果は、年間を通して、安心安全に児童生徒が学習に臨めるように、一人一人に寄り添い丁寧に対応しながら教育実践が行えたことが伺えます。														
その中で、小学部の保護者の2、3の項目の肯定的な回答が前期と比べて5%~10%以上あがりました。														
2は、子どもが安心安全で過ごしやすい学習環境に配慮しているという項目です。保護者全体、教職員とも、90%を超える結果となりました。引き続き、児童生徒が安心安全に学習ができる環境づくりを日々意識して取り組んでいきたいと思います。														
3は、避難訓練等を通して安全教育や防災に向けた学習指導をしているという項目です。後期では「地震 保護者への引き渡し」を想定した避難訓練を実施しました。また、各学部ともに、防災教育に取り組み、防災に対する意識を高め、校内で災害が起こった際に安心安全に適切に行動														

できる力を育むとともに、災害が起きた時の対処の仕方を考えることや、身の回りのもので防災グッズを作成すること等を通して、日ごろの生活に生かそうとする姿につながったと考えます。引き続き、避難訓練や防災教育等を実施することで、児童生徒、教職員、保護者が災害時の適切な行動を知ったり考えたりする機会にしていきたいと思います。

「よりそい」人権教育の推進										
児童生徒			肯定的		否定的		わからない			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
4	A	友だちと仲良くしている	90.4	87.7 ↓	2.7	1.2 ↓	6.8	11.1 ↑		
	B	友だちを大切に思い、仲良くしている								
5	A	先生はやさしく教えてくれる	82.2	87.7 ↑	4.1	3.7 ↓	13.7	8.6 ↓		
	B	先生は丁寧な言葉づかいや態度で教えてくれる								
6	A	教室にたくさんの先生がいるので安心している	78.1	85.2 ↑	9.6	1.2 ↓	12.3	13.6 ↑		
	B	より多くの先生に見てもらえることで、安心して過ごしている								
保護者			小学部		中学部		高等部			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
4	子どもは、友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちをもって過ごしている			60.5	61.3 ↑	77.8	68.8 ↓	86.7	90.0 ↑	
5	教職員は、子どもに人権を尊重した言葉づかいや態度で指導、支援をしている			94.7	96.8 ↑	94.4	87.5 ↓	86.7	95.0 ↑	
6	複数担任制を取り入れたことにより、より多くの目で個に応じた適切な配慮や支援を行い、子ども一人一人に丁寧に寄り添っている			71.1	83.9 ↑	72.2	81.3 ↑	88.3	82.5 ↓	
教職員			肯定的		否定的					
			前期	後期	前期	後期				
4	自分と友だちの命を大切にすることや思いやりの心を育む指導、支援をしている			94.2	92.7 ↓	3.8	1.8 ↓			
5	教職員は、子どもに人権を尊重した言葉づかいや態度で指導、支援をしている			99.0	98.2 ↓	1.0	0.9 ↓			
6	複数担任制を取り入れたことにより、より多くの目で個に応じた適切な配慮や支援を行い、子ども一人一人に丁寧に寄り添っている			76.0	80.9 ↑	17.3	7.3 ↓			
【「よりそい」人権教育の推進】										
児童生徒の肯定的回答は3項目中、全ての項目で80%を超えるという結果になり、保護者の肯定的回答が80%を超える項目は、3項目中、小学部、中学部は2項目、高等部は3項目という結果となりました。さらに、教職員の肯定的回答でも3項目中、全ての項目で80%を超える「よりそい」人権教育の推進に沿った取組が、ほぼ達成できたという結果となりました。										
その中で、児童生徒の5、6の項目、保護者の高等部の5の項目、小学部、中学部の6の項目の肯定的な回答が前期と比べて、5%~10%以上あがりました。										
5は、子どもの人権を尊重した言葉づかいや態度で指導、支援をしているという項目です。児童生徒、保護者、教職員の肯定的な回答は高い数値となっており、特に、児童生徒の肯定的な回答が5%ほどあがりました。今後も、教職員が高い人権意識を持ち、誰に対しても丁寧で思いやり										

のある言葉づかいや態度で接することで、児童生徒が安心して通える学校でありたいと考えます。

6は、複数担任制を取り入れたことにより、よりたくさんの方の目で個に応じた適切な配慮や支援を行い、子ども一人一人に丁寧に寄り添っているという項目です。児童生徒、保護者、教職員の肯定的な回答は高い数値となっており、児童生徒の肯定的な回答が7%ほど、保護者の肯定的な回答が12%ほどあがりました。大変、嬉しい結果となりました。これまで、保護者と担任が連携をとり、児童生徒について一緒に考え「できる姿」のために実践してきました。そのために、きめ細やかな指導や支援ができるよう担任同士が連携を深めながら、すすめてしてきました。

児童生徒の肯定的な回答が上昇したことについては、教室内で複数の担任と一緒に学習や活動に取り組んできたことで、安心感を持ち、これまで以上に信頼関係が築かれたと考えています。さらに、修学旅行や学習発表会をはじめ、学校間交流、生き方探求チャレンジ体験、実習等様々な行事や学習に取り組みました。その中で、挑戦、成功、失敗を繰り返しながらたくさんの指導者と一緒にやり遂げる経験を通して、自信を持って取り組めることが増えてきたように感じます。これからも児童生徒一人一人が安心して学校生活を送り、自分の力を発揮できるようにしていきたいと思います。

「つとめ」学ぶことの意義												
児童生徒			肯定的		否定的		わからない					
			前期	後期	前期	後期	前期	後期				
7	A	学校で頑張っていることがある	82.2	90.1 ↓	5.5	2.5 ↓	6.8	7.4 ↑				
	B	目標に向けて学習に取り組んでいる										
8	A	学校での学習や活動は楽しい	87.7	86.4 ↓	5.5	4.9 ↓	6.8	8.6 ↑				
	B	学校では、色々なことに自分から挑戦し、考えたり、行動したりしている										
9	A	学校でICT機器を使って学習をしている	72.2	66.7 ↓	12.5	24.7 ↑	15.3	8.6 ↓				
	B	学習でICT機器を活用している										
保護者			小学部		中学部		高等部					
			前期	後期	前期	後期	前期	後期				
7	学校は、三者の願いを「個別の包括支援プラン」に反映し、本人、保護者教員と目標を共有している		92.1	96.8 ↓	88.9	93.8 ↓	91.7	90.0 ↓				
8	学校は、子どもが生き生きと主体的に学習に取り組めるよう指導・支援をしている		94.7	90.3 ↓	100	93.8 ↓	91.7	87.5 ↓				
9	学校は、子どもの学びを深めるために、ICT機器を使って指導・支援している		71.1	67.7 ↓	66.7	68.8 ↑	81.7	85.0 ↑				
教職員			肯定的		否定的							
			前期	後期	前期	後期						
7	三者の願いを「個別の包括支援プラン」に反映し、本人、保護者、教員と目標を共有している		86.5	94.5 ↑	4.8	4.5 ↓						
8	「個別の包括支援プラン」に、保護者や本人の願いを反映している		92.3	90.9 ↓	4.8	2.7 ↓						
9	子どもの学びを深めるために、ICT機器を使って指導・支援している		76.0	82.7 ↑	17.3	13.6 ↓						
【「つとめ」学ぶことの意義】												
児童生徒の肯定的回答は3項目中、2項目で80%を超えるという結果になり、保護者の肯定的回答が80%を超える項目は、3項目中、小学部、中学部は2項目、高等部は3項目という結果となりました。さらに、教職員の肯定的回答でも3項目中、全ての項目で80%を超え「つとめ」学ぶことの意義に沿った取組が、ほぼ達成できたという結果となりました。												
その中で、児童生徒、教職員の7の項目、教職員の9の項目の肯定的な回答が前期と比べて5~8%ほどあがりました。												
7は、三者の願いを「個別の包括支援プラン」に反映し、本人、保護者、教員と目標を共有しているという項目です。児童生徒、保護者、教職員の肯定的な回答の数値が前期に比べてあがり、90%を超える高い値となりました。担任を中心に、学年、学部で長期目標、目指す姿の実現に向けて、個別の包括支援プランを作成しています。学習指導要領をもとに導き出した短期目標に取り組み、日々の様子や学校での取組について連絡帳やケース会議等でやりとりをし、保護者の方と共に相談、確認をしてきたことによる結果ではないかと思います。引き続き、「何を、												

何のために学ぶのか」「何ができるようになるのか」「何が身に付いたのか」等、学習内容や児童生徒の様子について保護者の方と共有し、日々の学習につなげていくことが大切であると考えています。

9は、子どもの学びを深めるために、ＩＣＴ機器を使って指導・支援をしているという項目です。児童生徒、小学部の保護者の肯定的な回答は少しさがりましたが、教職員の肯定的な回答はあがりました。現在、一人に一台配分されているタブレット端末を使用しています。各部の児童生徒の実態や学習内容によって、使用目的や頻度は様々ですが、アプリケーションを使い、自ら相手とコミュニケーションをとったり自分の考えをまとめ発表したりするなど、児童生徒の主体的な姿を引き出すことにつながっているケースも見受けられます。今後はさらに、ＩＣＴの効果的な活用を通して、児童生徒が情報を主体的に捉えながら、何が重要なのかを自ら考え、選択し、見出した情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値を創造していくための情報活用能力の育成を目指していきたいと思います。さらに、ＩＣＴ支援員の活用や教職員向けのＩＣＴ学習会を実施し、教職員の理解や専門性を高め、授業を展開していくことで、児童生徒が新しいデジタル技術や考え方を身近に感じながら学べることを目指していきたいと考えています。

「ひろがり」社会に開かれた教育課程の実現								
児童生徒			肯定的		否定的		わからない	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
10	A	家でも学校でも約束を守っている	80.8	84.0 ↓	6.8	2.5 ↓	12.3	13.6 ↑
	B	家庭・地域・学校でもルールやマナーを守っている						
11	A							
	B							
12	A							
	B							
保護者			小学部		中学部		高等部	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
10	子どもは、家庭・地域・学校でのルールやマナーを守っている		57.9	54.8 ↓	72.2	68.8 ↓	81.7	82.5 ↑
11	学校教育目標を理解し、より良い学校になるよう、連携・協力している		65.8	77.4 ↑	77.8	81.3 ↑	86.7	85.0 ↓
12	学校は、学校ホームページ、すぐーる、配布物等を通して学校の様子を伝えている		94.7	96.8 ↓	88.9	81.3 ↓	96.7	97.5 ↑
教職員			肯定的		否定的			
			前期	後期	前期	後期		
10	社会のルールや生活のマナーが守れるよう指導している		94.2	91.8 ↓	2.9	4.5 ↑		
11	より良い学校にするための学校教育目標に向けて、保護者や地域等と連携・協力している		77.9	94.5 ↑	13.5	10.0 ↓		
12	児童生徒の様子を学校ホームページ、すぐーる、配布物等を通して伝えている		79.8	89.1 ↑	11.5	4.5 ↓		

### 【「ひろがり」社会に開かれた教育課程の実現】

児童生徒の肯定的な回答は80%を超えるという結果になり、保護者の肯定的な回答が80%を超える項目は、3項目中、小学部は1項目、中学部は2項目、高等部は3項目という結果となりました。さらに、教職員の肯定的な回答でも3項目中、全ての項目で80%を超え「ひろがり」社会に開かれた教育課程に沿った取組が、ほぼ達成できたという結果となりました。

その中で、小学部の保護者の11の項目、教職員の11、12の項目の肯定的な回答が前期と比べて大幅にあがりました。

10は、子どもは、家庭・地域・学校でのルールやマナーを守っているという項目です。小学部の保護者の肯定的な回答は54.8%、中学部の保護者の肯定的な回答は68.8%と少しさがりましたが、児童生徒の肯定的な回答は84.0%と少しあがりました。クラススタディ、ライフスタディ、ワークスタディ等様々な学習の中で、適切な人との関わり方、必要なルールやマナー、規範意識を身に着け、自ら行動する力を育んでいます。今後も学習を積み重ね、多様な場面に応じた適切な行動ができることで、子どもたちの活動の場が広がるように取り組んでいきたいと思い

ます。

11は、より良い学校にするための学校教育目標に向けて、保護者や地域等と連携・協力しているという項目です。小学部の保護者の肯定的な回答は前期と比べて11%ほどあがり、中学部、高等部の保護者の肯定的な回答は80%以上と高い値になりました。さらに教職員の肯定的な回答も前期と比べて16%ほどあがりました。地域の社会福祉協議会での様々な作業や利用者の方への喫茶サービス、ワークスタディ農園芸の活動では、定期的に地域のボランティアの方に来ていただき、野菜の育て方や支柱の立て方等の農作業に係る知識を教わることや、京都橘大学の学生による防災教育や和太鼓の演奏等で、日々学んできたことをより深めることに取り組みました。引き続き、地域のボランティアの方々や福祉施設、教育施設等と連携し、児童生徒が日ごろ校内で身に付けた力を地域で発揮しながら生き生きと活動できるよう進めていきたいと思います。

12は、学校ホームページ、すぐーる、配布物等を通して学校の様子を伝えているという項目です。保護者の肯定的な回答は少しあがり、教職員の肯定的な回答も9パーセントほどあがりました。日ごろから、児童生徒の学習の様子や学校給食のこと、様々な学校行事の様子について学校ホームページで発信しています。また、修学旅行実施後には児童生徒の活動の様子が見て取れる写真を数枚、すぐーるを通して個々に配信しています。今後も引き続き、学校ホームページ、すぐーる、配布物等を通して学校の児童生徒の様子を伝えて保護者や地域の方々に本校の取組を知っていただきたいと考えています。

「つながり」場を超える学習									
児童生徒			肯定的		否定的		わからない		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
13	A	学校以外の場所で、友だちや先生と楽しく学習している	72.6	79.0 ↑	12.3	3.7 ↓	15.1	17.3 ↑	
	B	交流や地域の場で、人と関わり、自分らしく学習している							
14	A	好きなことややりたいことを伝えている	82.2	77.5 ↓	6.8	7.5 ↑	11.0	15.0 ↑	
	B	自分の卒業後の生活に向けて考え方伝えている							
15	A								
	B								
保護者			小学部		中学部		高等部		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
13	学校では、園や小・中（学部）学校や学部間の引継が行われ、指導、支援が継続されている		78.9	77.4 ↓	77.8	75.0 ↓	85.0	87.5 ↑	
14	学校は、子どもが地域資源を活用した学習や交流及び共同学習等で、様々な人と関われるよう指導・支援している		71.1	83.9 ↑	55.6	68.8 ↑	75.0	82.5 ↑	
15	学校には、本人や保護者と、各部を卒業した後の進路や生活について考える場がある		52.6	67.7 ↑	77.8	56.3 ↓	76.7	85.0 ↑	
教職員			肯定的		否定的				
			前期	後期	前期	後期			
13	園や小・中（学部）学校や学部間の引継を行い、指導、支援をしている		77.9	80.0 ↑	11.5	7.3 ↓			
14	地域資源を活用した学習や交流及び共同学習等で、様々な人との関わりを通して、子どもが意欲的に活動できるよう指導・支援をしている		81.7	85.5 ↑	10.6	8.2 ↓			
15	本人や保護者と、各部を卒業した後の進路や生活について話をしたり、考えたりしている		77.9	72.7 ↓	12.5	16.4 ↑			
【「つながり」場を超える学習】									
児童生徒の肯定的な回答は70%台という結果になり、保護者の肯定的な回答が80%を超える項目は、3項目中、小学部は1項目、高等部は3項目という結果となりました。教職員の肯定的な回答は3項目中、2項目で80%を超える。「つながり」場を超える学習という取組には少し課題が残る結果となりました。しかし、その中で、児童生徒の13の項目、保護者の14の項目、小学部、高等部の保護者の15の項目の肯定的な回答が前期と比べて5~10%以上あがりました。									
児童生徒13、保護者、教職員14は、園や小・中（学部）学校や学部間の引継を行い、指導、支援をしているという項目です。児童生徒、保護者の肯定的な回答は、前期に比べ大幅にあがりました。居住地校交流で地域の小中学校の児童生徒と共に様々な活動を通して交流を深め、「楽しい」「また一緒に学習したい」という思いを持ち、学校以外の場所でも落ち着いて学習する姿や同年代の子どもたちと一緒に活動する姿を見られたからではないかと考えます。これからも同年代の児童生徒のやりとりやつながりを持ち、地域の中で育まれるような、学習の場を設定していく									

たいと思います。

児童生徒 14、保護者、教職員 15 は、本人や保護者と、各部を卒業した後の進路や生活について話をしたり、考えたりしているという項目です。児童生徒、中学部の保護者、教職員の肯定的な回答はさがりましたが、小学部、高等部の保護者の肯定的な回答は、あがりました。各学部とも進路保護者説明会を実施し、年に 6 回進路だよりを発行することで、将来について考えるきっかけにしていただきたいと考えています。また、家庭訪問やケース会議（個別懇談）等で、個別の包括支援プランの三者の願いや目指す姿を本人や保護者の方と一緒にイメージすることが、少し先の将来や高等部卒業後の生活について考えるきっかけになると思います。今後も、児童生徒が「夢」や「将来」について話をしたり、「なりたい自分」をイメージしたり、目標に向かって取り組んだりすることを通して、各部を卒業した後の進路や生活について、学校と家庭が共有していくことを考えています。

#### 【学校運営協議会より】

- ・子どもによっては、アンケートに回答することが難しいと思う。その時には、先生方が丁寧にくみ取っておられると思う。
- ・小学部の保護者の肯定的な回答が低い項目は、子どもの実態によっては、どのように回答していいのか分かりにくく低くなっているのではないか。
- ・複数担任制の肯定的回答の数字が高くなっていることはとてもいいことだと思う。チーム担任制、チームティーチングという考え方のもと、複数の担任の先生方が子どもたちを丁寧に見守ってほしい。保護者 10 の項目や児童生徒 14 の項目、保護者、教職員 15 の項目が全体的に低くなっているのが気になる。